拾遺
四季部抄
元

蕉門俳話

拾遺四季部類大全

一名新季寄

浪速　鹿島秋可著　寿梓

序

新しき季寄の作られしは、[illegible]
言葉の改まるにつれて、[illegible]
まことに[illegible]
[illegible]
いにしへの神仏の名を花鳥の[illegible]
或は[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

附言

一新刻新季寄八四季部歌をかゝ諸抄に成
ゆる大象降物風俗の歌より神社仏閣す
行事衣食草木に出るを四季部
詞ふるゝものをあつめて傳記かゝ
刻四季部歌まあつめ歌をを四限に
設る事は試みたゝんやうこゝろ

一古抄にあつて四季部歌をあつめるものに名
をつけ出所をとゝめる
一いにしへ用ひまる詞をこゝ
まゝ抄て出し筆をふ抄をの抄なり
一神祇仏家の法名る歌は其の名をまへて
俗語に用ふるものは法名つゝ
ゝ歌遍しを考て後編まゝ

一奏未就等連篇法條之体自全十体
十五條其除古義之老語以換出我撰
のもとゝす初心の便とす

大可淵著述
日折左再訂

○春	正月	乾坤	亜月	端月 開端
				條風 雨水
				太良月 早緑月
○夏	四月	乾坤	維夏	喜月 麦帝
				朱明 六陽
				流鶯 庚伏
○秋	七月	乾坤	歌見月	桐月 小暑
				金商 明景
				蓐収 白藏
○冬	十月	乾坤	陽月	良月 小雪
				玄冥 玄冬
				徒櫃 條場

太鼓 蒼天

斗柄東指（トウシ） 元日

花晨 費翔

三朔 三始

正月忌詞

たゝかさぬ

こゝろのこゝろ

蘭池 沈融

塊夏 黄梅

伏暑 蒸炒

斗指東南 立夏

明石幟立 一日

今日幟をたて端午まつり

こゝろ立 又五月設

てたてるゝ

新秋

[illegible] 七十二候

初月

十七日の月をいふ 又八月上旬の月也

摩尼踊 カウヤ

つんつく踊

いせ日永村にて

十五日

玄鳥

雉入水爲蛤

風[illegible] 十日

番船

芝居業況

[illegible]

よねこぼす
泡こぼしこぼす

らきうこ
又きつねこ云
ちきりふ

はやす
七夕やんうま
ちやんやんやし
生てきこと
をりふ

連雜 大和
村こうちうこ
ちきふこと

外浪

菜種入物
東西のもとり

筆入物 日
以下夏三月ヨ
こうこう

桜手
角ゆうこう
ふ

ちきぬ犬 廿日

大小こうして
九日

植物類

ついてこうふ 桜

秋七草

中排 廿日

霜時雨
小雨うてこ雨
くふるあかもの
ちくくもを
犬をうこ
こうを
こうをこ
こうふ

以下冬三月ヨ
ヨこうこう

風切鎌

たのしひ
ちらつかせる
ほまつ寺
所かう寺ふ
とやくてをを
中ほいはつもい
ねあ名ふのを
バをふいをこ
ぢをあり
蘇鐵初 元禄ルイ名

蔦蘿風
よしふ花
らしを葉
ヒル
午時子
大工かやしの初
称八月分り
初して八月新
ま初る三天春
いふハをみ三夏
あををいふ

あさがお 芙蓉
をきあへ 芍薬
ふちをは 菖
柳よ
梅ほをもの花
ハつ紅ハ夏之
扉風草 文禄ルイ数
蕎の花

早稲の穂ふ
風をちんく
稔を結ひて
にもけ梅のこ
またてるこ立方の
中之の板柳

雪欠スキ 元
こすきをもふ
ふおすしをん
者をあくまく
けりてあの
をを知をを
ちふをり

義初
種初 元
掃初
鐵炮お初
輪うさぎ
紫盃子
三物壹

南畑
植物類
ちこゆすを
金秋の花を云
兎ぎつを紫
ぎつ

鐵炮草

ちゆの花
雀志ずず
七月八刈田
ちををたた
りこつを田之
蕃椒稗穀
大井もり
のをき
ハツをり
たを瓜

風花
ちを風をを
ちりんを
ちをを

食雪
温石
茶灰

植物類

もゝ一八京師忘匠
京の三ツ四ツ
て活中とこゝ
ゝ

芭蕉漢初
洋金度の夜光
のこゝ守屋上りよ
て番たいこゝ
産氏の夜光二の
こゝ彩宮の新
四とこゝ
大坂りこゝ
し

へんゝ草
苔の実

こゝやこゝ
活六仏耳塚の
みこゝ

芙人蕉

顔草花

落葵つむ

蕎皮とる
胡戸鬼灯

生類

枝ぢひ
七月にこゝ蕎
をいふ

野さゝき
ふゝそゝをこゝて
草詩こゝ蕎

紫桔
山素花とそ

きゝ丈の実

菊桂子
こゝ橘

生類

けゝゝ

▲画之部

加古川ものうり

播州加古の民あ
る業をなりて七
月十五日の
初まと称ふ
あやまり
ふるこころ

面くばり

信州、阪田にて
百姓数人
手前の事

さや豆

さちまき豆

所いちこ

柳いちこ

ちんまつん所

生類

犬狩

蛸蜘 糸屑

蟷螂 月

雄虫 元

以下五月ニ
ものうり

厂巻

麻殼

光つくとも
ふるまち

[illegible]

以下冬三月ニ
ものうり

水鼠 氷鼠

蛇[illegible]
[illegible]

雨晴

風

雲

[illegible]

淀稲荷祭礼 [illegible]日

堂島米市例年初市八日[illegible]

[illegible]

初子式茶碗

相馬[illegible]

上の[illegible]

犬行 犬番

犬追

[illegible]

池鯉鮒馬市

[illegible]月[illegible]

馬追

衣食類

桃衣 元

蕨衣 月

蕨[illegible]

苑芒衣 月

蕣衣 月

寄昆布

[illegible]

[illegible]

衣食類

初霜酒

[illegible]月[illegible]

[illegible]初子[illegible]

上[illegible]

[illegible]時八[illegible]

[illegible]

[illegible]

月の内の日の事
甲乙の位この表
新月の家ごとに
アテ　鮮鯛
ものくされこと
ぬること
ようにせ
ようとす
ことを
月
とうふ
四月
つく
おとし文
菱　鰊
高野寺せりき
六日
住吉虫払
七日
高野不動
七日より
十三日
雷消
神釈
神立
一日
来山忌
三日
福女
ふくふく
神釈

赤鱈豆ノ
御ノ
蘭玉祝 日

春風ものの家せの
ものもの
をつとう松ものの
まつのもの

延年講 十四日

又ものん梅ものの
ものの

鏡臺祝 廿日

衣食類

文鰒奥

筆漬る

若帆衣 元

牡若人 日

牡丹衣 日

大の門ぎつ松

男女ものの
いのるもの

鄙臺ふ 七日

琴浦ふ 五日

宮市天神ふ 十五日

防州宮市大内
ものの松ものの
黄高のもの
なり

神釈

関白加茂詣

戸明 八日 大峯

芝祭 日

出羽の国大沼村より大沼を一面に八ツの山伏のやうなる丹城とし所謂祈祷也

鳥おろし 日

摂州十郷も村民非の二条より つ移る長に相げを てはく寸二ツの るとうも此釈を西の二条の社にて里人迎る多う 時新まのもの と申しいとなる もはるもの

菊供 日 土百三

夫る事婆羅門 十種ゆゑ 或の中見はてものるは仏法を 長門 未刻 橘 菊の新枝 菊の義を 長い寿 めるる 法華経を我は しと 仏刻 て

以下無二月 ゆゑ

風めるむ 四

ゆゑめるむ ゆゑめるむ

遊女の舞妓

春日宮 ゆゑ 仏 菊 東

ゆゑとおれとゆゑ 里人 ゆゑ 寸 長 ゆゑ ゆゑ くまた ゆゑ て無 ゆゑ ゆゑ

植物類

一 菖蒲草

浦 ゆゑ 社 ゆゑ 菖蒲 菊 八 ゆゑ 飛 梅 ゆゑ 菖

浅間登山 日

真長 日

ゆゑ 大仏 ゆゑ 人 ゆゑ 大仏 ゆゑ

菊の虫 日 山言

殺法庭 七日 土言 迎

長門 ゆゑ 寸 ゆゑ 仏 ゆゑ 仏 ゆゑ 歌集 ゆゑ 八 ゆゑ 菊 ゆゑ 百 ゆゑ 大仏 ゆゑ 菊 ゆゑ 百 ゆゑ 仏 ゆゑ 一 ゆゑ

芭蕉忌 土言

業 ゆゑ 芭蕉 ゆゑ 仏 ゆゑ 仏 ゆゑ

十六日 梅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

墓草刈

[illegible]

十三日 身延開山忌

[illegible]

[illegible]

仏忌 廿日

[illegible]

生類

月つき

[illegible]

子持勦奥

[illegible]

笠ノ祭 十五日

[illegible]

今熊野大般若

二宮知祭 日

長府忌宮神功皇后

権現御祭禮 十七日 川サキ

泣祭 廿日

牛向市

草市をたて

出殿名出延年 十四日

[illegible]

一山忌 廿五日 十モンシル

[illegible]

三井寺論戦 廿八日

智證忌 廿七日

龍田垢離 月

[illegible]

海雲寺

長列之事

白奠酒

墓列之事

楊枝貝

伐之義の沖なる事を見て他日之著のし

墓列 泉安訳
宗任女の墓
里俗男女ともに
白衣をうめて
酒之こと を伝
ふるしの

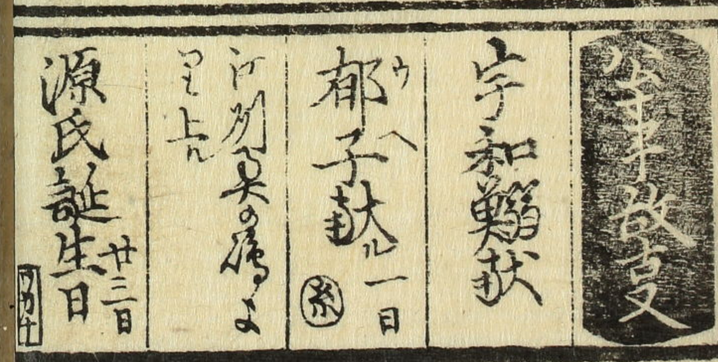
雲柏供 卅日 北野

午神支 中未 山王祭

雪宮詣 月

歩一

つくあみ 亜もろこ
及ひ合墓のもの
ひまはて事色
みすより男こ
この二人のうし
ちまふ赤得よ
て善をれ
大きよりて
池り雪ふすち
ふいしよ新
抜へ赤の所ハ抜
ふこの抜後
て双方鯨伝三
ちまはけ



ところ ばりよ

宇和鯨狀

郁子狀 一日 ウヘ

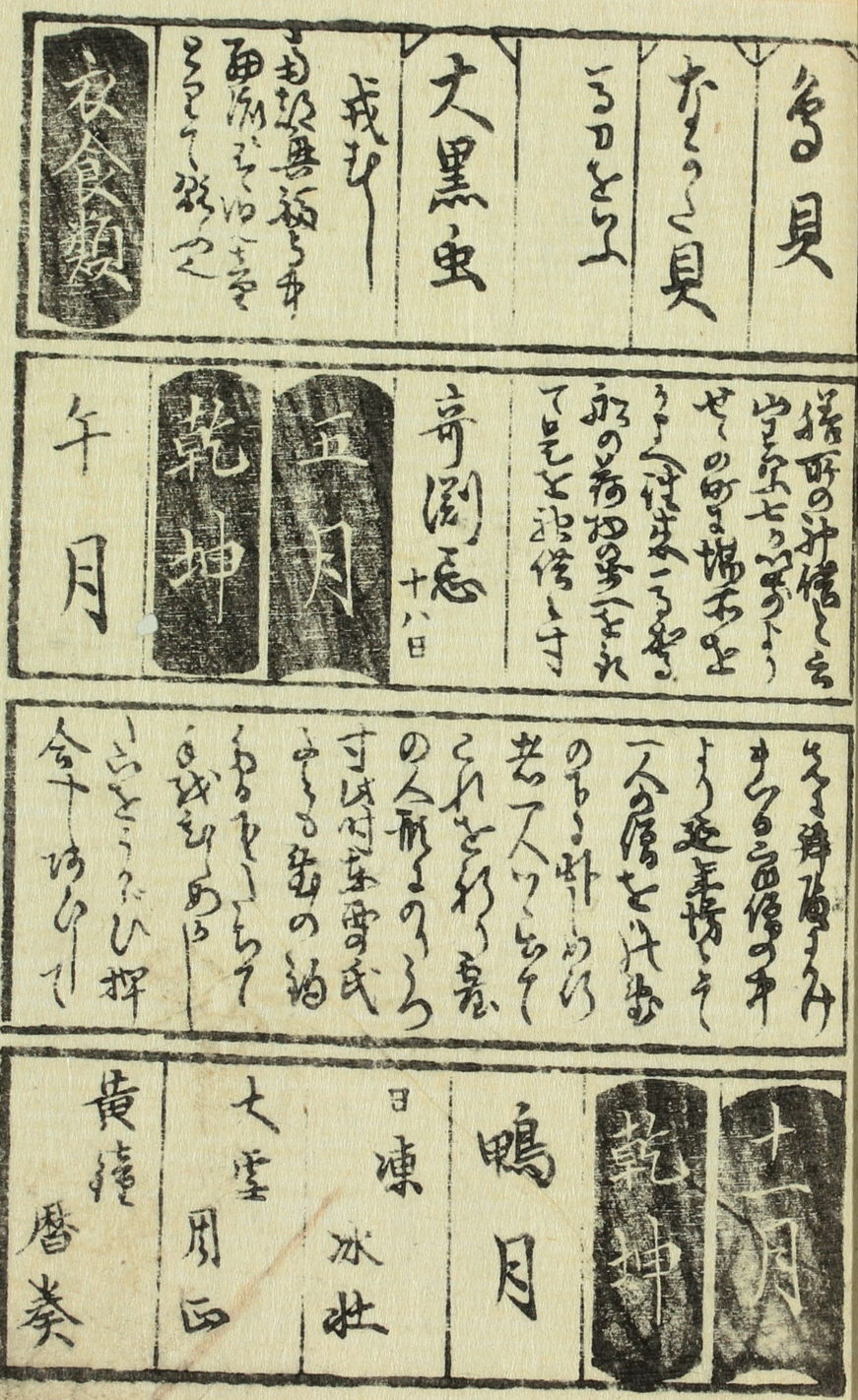
江刑吳の後よ
つ上ん

源氏誕生日 廿三日

手むけ市

芋田垣離

ミルクイ
西施舌
ムキミ
大黒石
虫
中
左
青宮おとし
歩一
手
歩


貝
貝
大黒虫
食類
五月
乾坤
午月
十一月
乾坤
鴨月
日
凍
冰壮
大雪
月四
黄鐘
暦奏

以肥前大夫黍 二日

江戸命名之日
ちくりのこさぬ我う
るひ〻

大井河濁酒 月

川越の酒屋年
始を酒肴に呼て
酒をすゝめる
寸分九分九厘にて
八十八九十八ぐらい
にて行れしと

田舞京 東井

芝神 義林

南洲 條系

富士野男

甲斐野男

富士山を三角のい
ゝ男に擬をうゝ
けあゝ出るる形
所なる之世民間

佐賀ゝとも守
らんゝ後へ
形とうゝし
爭ひ双方とも
あひ蓋をはる
ことをもゝすば
すもを喰うゝ
いるゝ比しも
れさるもむ
やゝうゝ蓋
をはるものゝ
後の勝負為
ひとゝのもと
て大きゝ上る四

ゝ生 風寒

吉辛月 天正月

顔見世を打

大ゝ 盛世 花ゝ

二見浦千十吾

氷の橋 スハ湖

二日着

三日に八新町の領城こと日道寺の家宝ゑ八ち八り仕きせ二日三日に尺くりて拵こ

八ヤサウ四酒

植物類

皐涼

漆りき

五月より紅葉九十月より

布屏風

布或八流よりて

植物類

擇尖 十四日 十五日

実外森間の玉

擇の花の花と

蘭桂る

花菊 上申

蕊根堀

もろこしの所にて生ずる所なり
あるいは中国にも
ちょうど所なるの時
四八月ちょうどいくる
中に雀雨下り
しかるに例ありて
ちょうどこれ
中の中に花つる
ちょうどこれ之

梅重 元

柳重 日

楪の花

こうびの花

夾竹桃

梓の花

雷さけ

芭蕉花

浜茶草

土左踊 十日

土左の国にはのふ
堀江新蔵屋敷にて
踊あり唱歌
八丈法大の所
ちょうど村主稽
わってつもり

立山聖天市 十五日

法教地ちょう谷地
義経のわ
かりやのそ
あるつ

生類

天王寺牛市

はるせんぐ

越前の大浦
仏事当月八日
寺上ちゃ見

くずか

若草衣 日

正月小袖 日

以下毎三月
ちょうど

八代海苔

長ワのり

牡丹のり

葉のり

一名のり

海帯根 カズ 根ぢ 考

大坂御城番
場に有

車軸草

鋸草

ぐんぎそう

天麻

知俗説人のそ
つふ日光山又和
州吉野ちょう
いつる

八幡宮濱市 十日

十五日ちょうど
宮の内金ひ
まあひしる大
市あり

梶原せがきく 十六日

かまくら建長

宝ち開帳 日

偽法せがきく 十六日 正レンチ

鮪 シビ

ハツ

ぐろ

あ

衣食類

物雪衣 元

柚子つる

神釋

伊勢布神社の元

[illegible]

刈[illegible]

愛宕清 [illegible]日

四天王講曼坂

生類

霸王樹花

蠅 茸

あさぐの芋

ラッキャウ 小韭

三尤多

[illegible]

ひやうふ 十七日 東名

宗祇忌 十八日

遊行 サウアン 同

[illegible]

蛸市 廿四日

河内八尾村[illegible]

神釋

烏祭

二月[illegible]

[illegible]

神農祭 [illegible]

東大寺の米

万代精進

泉州万代村ハ
[illegible]

蛙乾物

[illegible]

五位鷺

[illegible]

定鈔市

[illegible]

[illegible]

八幡三足をどり
ゆるこれをうり
早船にて諸国
使人門前にて
あるいは家内
まつ初午の牲
ささげれ

供物 赤飯

えらむ赤飯ハ
家内安全の
を祈て赤飯
を炊ること

蟬 花

地を化して
ふるふるこゑ
木の根あるいは
土人らを化換
しるし八地中よ
り羽化けのこ
きものいでし二
三日を経てこの
ときすなわち
ことを孵化と
称せしの形の
もの

本願献水仙

河内飛鳥村
俗名鈴

故事

桂の枝 七日

午洗 日

民家合歓
枝の日を炊
午を
出して

蓑ひろう

蓑祭

農家毎月
を掃清
炊飯
を
増
男女

すかん雜藝

神乘虫

蚊帳

蠅帳

有馬溫泉入初 二日

八月

乾坤

玉秋

壯月

桂月

豆雨

風高

白露

秋分

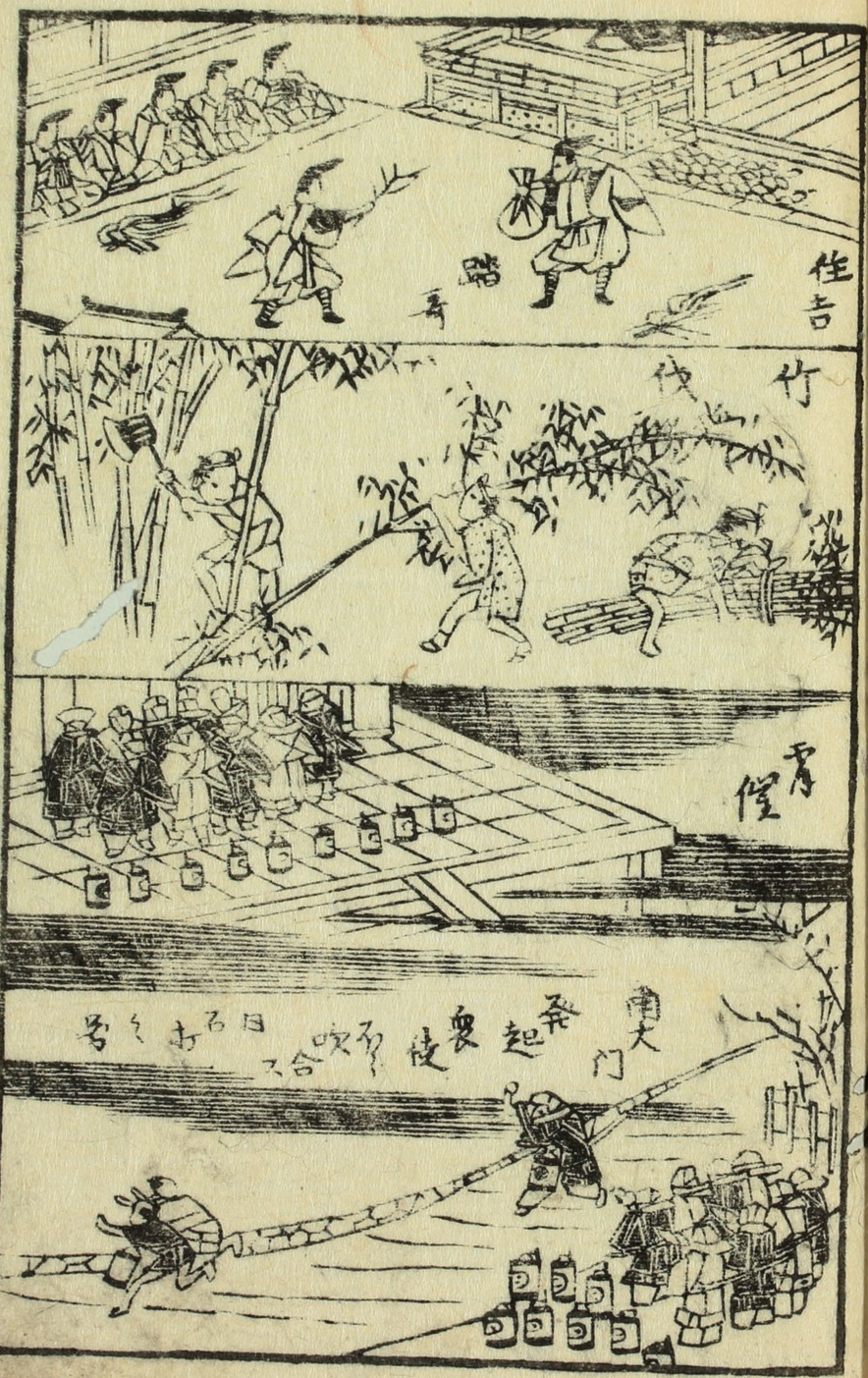
永紀元 三日

十夜刹女御火燒 八日

花園院御忌 十一日

こくそ祭 十二日

淨義元 廿一日



▲正　神祭

行基仁西の海
偈を書まうを
一云の偈偈
まして温室
入初の式あり

弋磨忌 二日

大黒湯 三日

江戸後市御福
まつり鉦鼓を
ふらせ給へり

▲五　衣食

鯨のよせ

麦こうし 綱

麦こうし 焙

麦こうし味のを
こうしたもの

はんし

さを飯

▲八　植物

厂マ

鮭の小風とる

鮭 亂

寺別ていつ
ものえと

二日 灸 元

鶏 皮 月

麻児嶋猟 十五日

▲十一　神祭

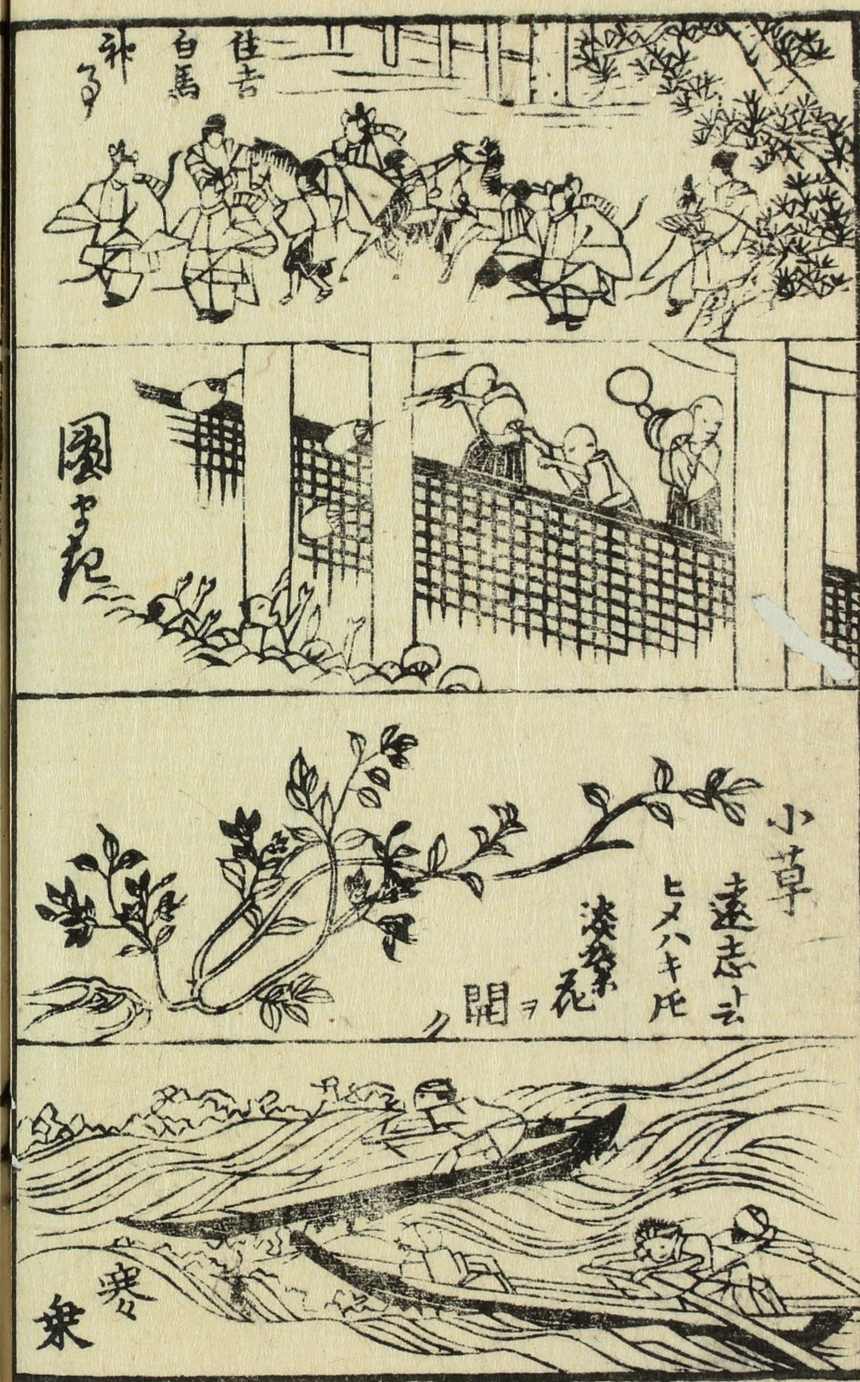
いせ忌 月

獣改 廿一日月 廿五日ヒツ

寺の神皮獣上
の獣を改る

御ふ宮詣 廿六日

戌刻式八正月と
同し俗信記
猟とす



年歯の松ゝ

住吉踏歌 十四日

御福迎 九日

尾州熱田上手
竈神へ法人系
結して祝ひの酒
を買ふ

山王宮神事能 六日

住吉白馬神事 七日

衣食類

白鳥雑煮 九日

源姓の長崎
の祝ひ用ひ大
根菖蒲の白根
雑煮の祝ひ

酒をつくる 同

菊花酒 元

植物類

百日男

酒造家の御
人来る

ゴ癒 元

ちゝひ草

武家方にては
八月より頭方に
贈答をする

動生類

蝶生舎 十五日

みゝうとゝ不雑
覚理法例法之

御組板壬 廿八日 元

両本教

行殿三 廿八日
清水

ぶと祭 廿日

注引 同

伊勢上野村山神の主水は任生をゆひつみ頃文を唱へこれを注引とて山よりの田畑へ御注まる心ぢう

伊予志氏 十日

答のうり 注の氏年頃

神釋

擇衣 同

若苗色衣 同

百合衣 同

早苗餐 同

ウツキヤウ 北郷注引

竹を伐ル

六月竹八月とゝ八月きれ虫ゝとゝ蟲の伐八月

黄櫨る

姫萩

迷走の色

石つゝ草

いう行事の氏者まを祭之

十二月

乾坤

窮月

除月 隆冬

要刻 黄冬

注尾ちゝ宮の切と村氏炬れ

注ことゝして主行者

茅の手宮を出せの

あゝう米一石を

あつめて発願し

して変毎ちゝ

これを答のもつて

とゝ主そのちに

変ゝあつゝとゝ水

ふゝとゝみわひ

後村老そゝやむ

執田熊野神夏 七日

聖武帝御宮 二日

南部眉写る

鮎ゝ釣ゝ 三日

山川ちゝ水伊勢

ゝ門ゝとゝ鮎三千

三百廿三ゝゝゝ

釣得ゝ御

立條市姫 十三日

世ものの位ゝとゝみ

石を為つを人

つゝて上ゝゝ

杓杞の実

不ゝきすの花

せんふうの花

蓋の花

ゆうつゝ

蕨糸 苦菜

湖麦 果園

磐

蓼雪ゝ

七用ゝゝゝ

寒糸

住吉評定始　十日

直會　十日

尾州中條郡の
人のこの神に
祈願をかけ
たてたの傍に
て往来の者一人
をとゝめ海路を
まもり夜をあか
神あらはれ
姐板をとられ
る危うきまもり

永観第七般若　十六日

雲屑寺記　十九日

尾州七大寺の
内招提寺の
宝山寺のくの
うちにて
のちの記て事
りすまひ
ひ一供雷像の

苗東川

もぎ茄子

大名草

生類

加多

漢東の男子
八九才の時より
弾を好き
猟師を
家業

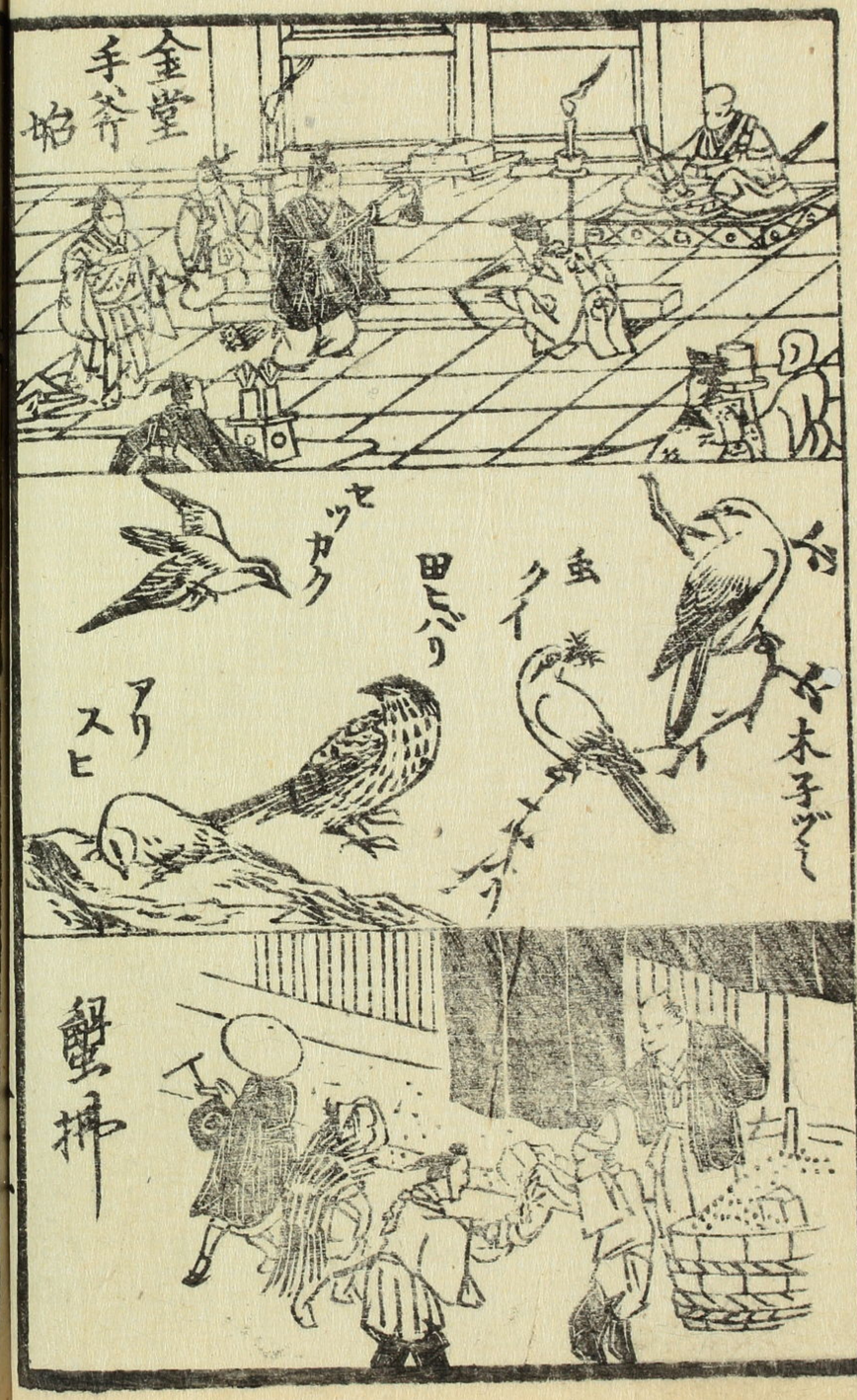
角力寵　十七日

翌年の新進角力
の無りしを
まもりて
なり

熟田
踏耳
神夏

芋
芋の花

弾



しまを後愛人形をつくりて
ふれ捕まるうちの
ちとちとらしてし組
板をすえ
来りしを傍
すへ
て一枚ぬ
皮をつ
和人もまた
ちりて
ちの人の
書
まを
まり

ちりて

蟬丸象 十二日

丈ふ忘 日

教政忘 廿二日

業平忘 廿八日

曽我象 日

銭吸 日

木の上に居て人を出
樹のこずえを吸ふ

月琴 八十 日

水嵐 日

ぜんく 日

田子雀 日

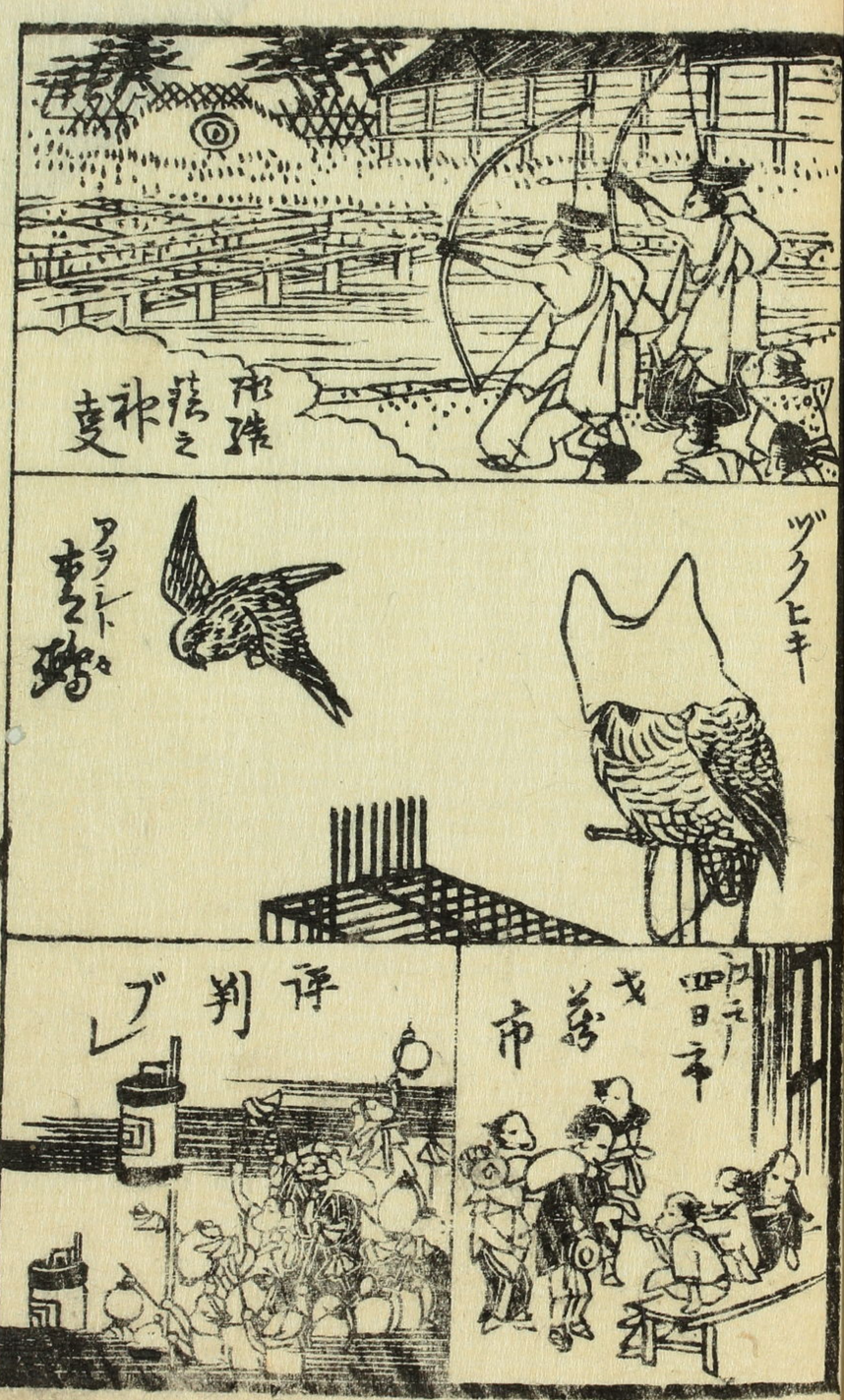
海鼠売市

三河国美濃に
出てかをるとう

蟹拂 元

私丈

前津ゑうて
ふの世のまを
蟹手の銭を
文ぶつとれて



金堂牛蒡始 月

天王寺

日蓮宗祭礼 十二日

ひめこそ宮

祇園御輿洗 廿日

故事

寺宮を清ち 五日

青鷺 月

初草

八月九月ごろ

水兎虫

角伐 彼岸

事始終の角をきりそめ

後生

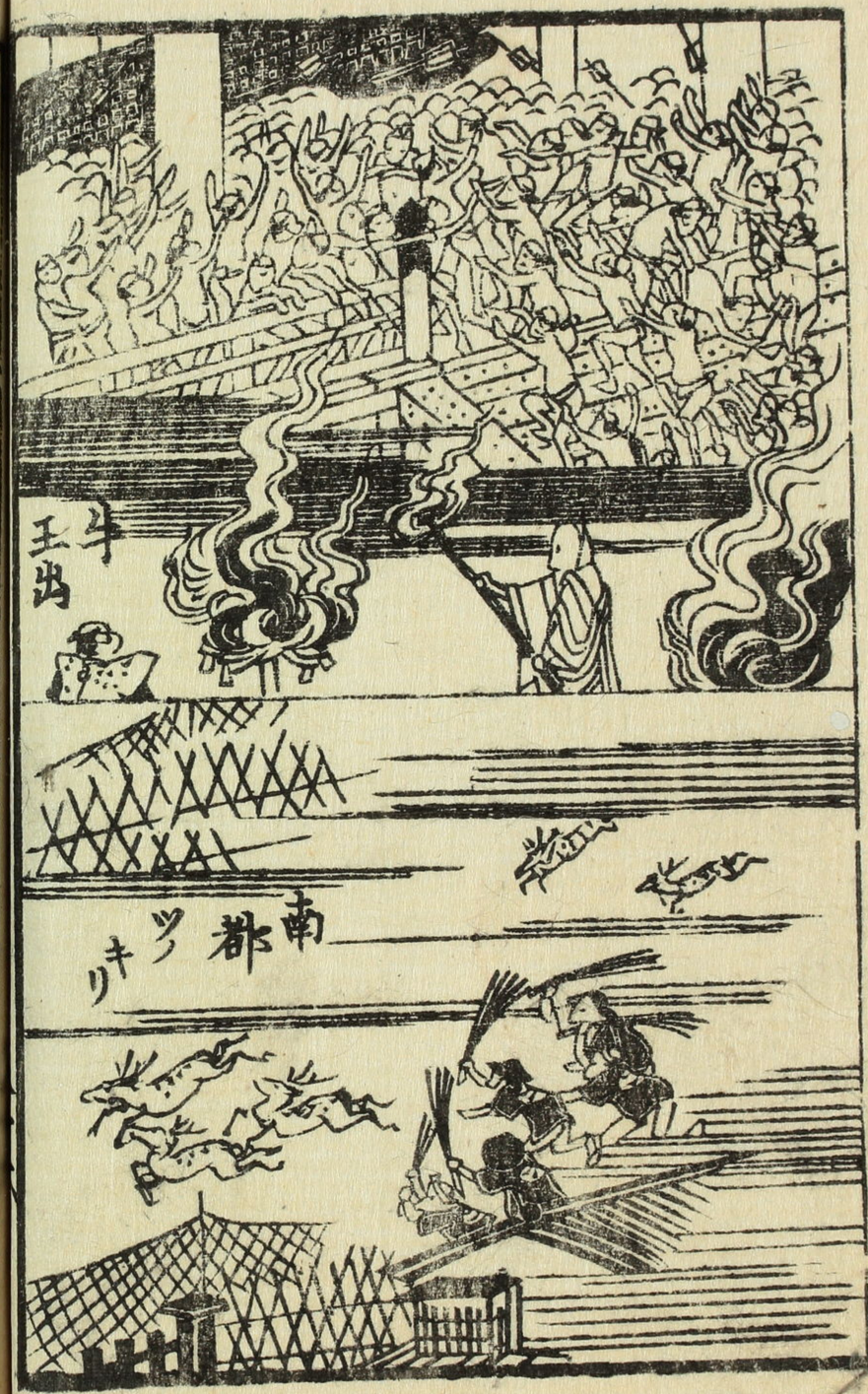
芝居評の青鷺

二の巻の評判

芝居の市中をあるく

の丁ちんとして多人数

ふきあるくなり



伊張弓

伊吉の[illegible]を云

伊勢世様 十四日

世[illegible]の中屋
上二年れを[illegible]
[illegible]月新[illegible]
[illegible]
の[illegible]減をする

牛王出 天[illegible]

朱鐘旭出 月

[illegible]
[illegible]の[illegible]
をこうこうく

喰混飩 日

[illegible]
[illegible]草[illegible]

六月

衣食類

吉原小袖 一日

女良花衣 元

蘭衣 日

桔梗衣 日

[illegible]衣 日

苅萱衣 日

居[illegible]合 廿八日

植物類

[illegible]

生類

白巣初網 十三日 [illegible]名

初網の白巣を
献上してのち

村民云時雨うま
よりてこゝやし
し大喜こゝとめり
堂の拍子ふし
やうしうみを
をそ〳〵

鬼瓦ひ 日
出生山

こゝ浦の鬼押
へよ行神〳〵

長谷ぐ押

長谷ノ
ダハナレ

乾坤

鼎 月

赫蛾 祖暑

こゝ陽 遯月

旦月 広期

陽水

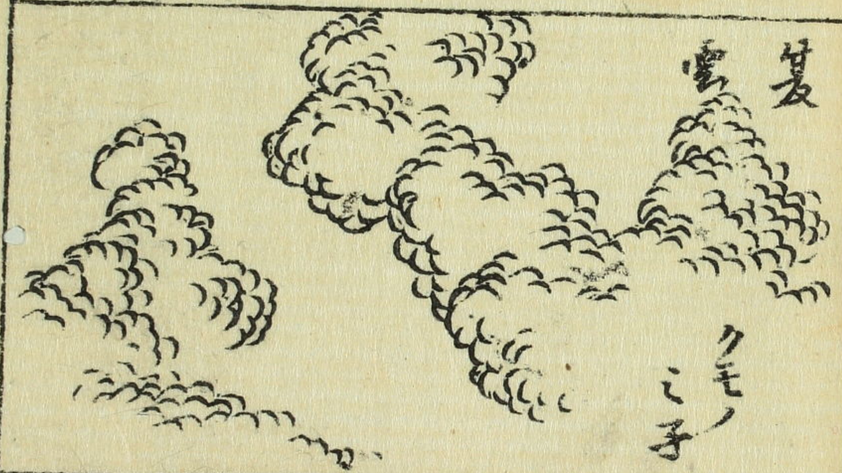
瑩苑衣 日

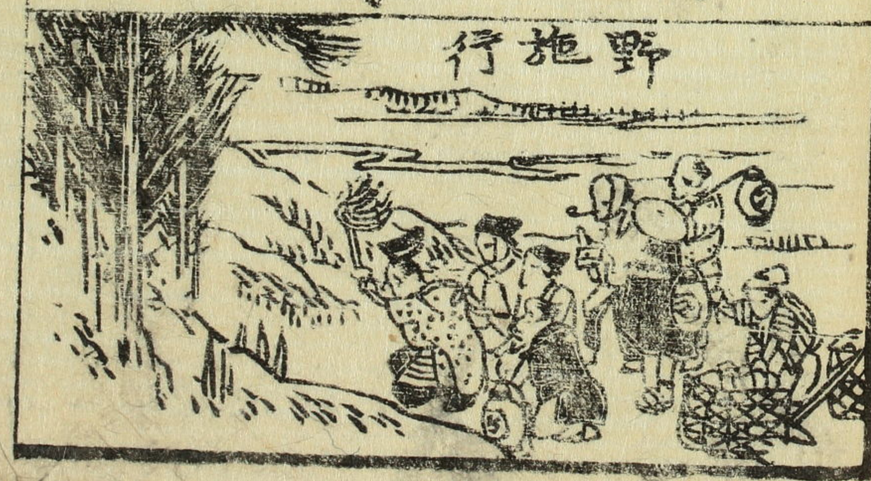
月草衣 日

桂衣 日

もゝこ阪

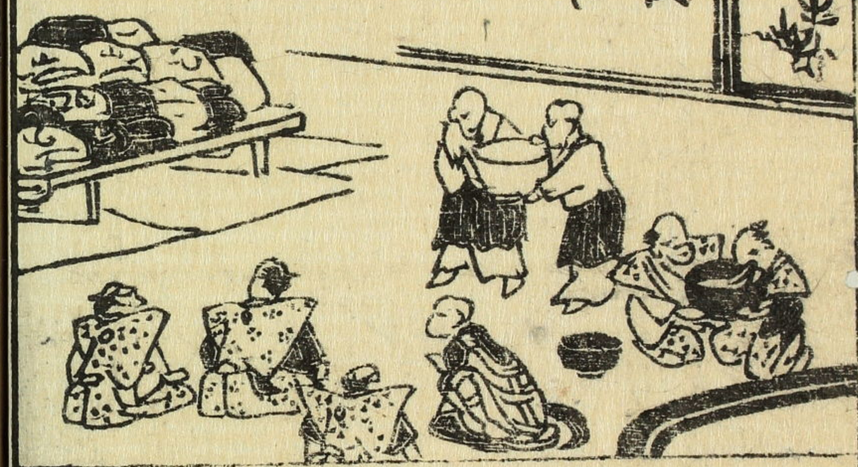
厂り隣





茶盛

今日寺僧都を後
けふ袖山をとうすり
おりゝ茶碗ハ至てあ
古品にして五合入
よう七杯入迫ひり
茶碗の書ものを乞
ぜんとおもへハ上ものを
つけて注ぎつきをも
きれい袴をこ大音ハ
二人三人もやかてく
ちゝ



あしゝ相ちゝ
のおうをつ〳〵
いうの赤義田社
こく相八紙江
ケ赤の百姓双方
こうの下神奉
て相たゝハ
常ゝ
ゝ

土用三良

ちゝ毛牙三のゝを
いゝちゝ毛ゝ
ゝゝ八考ニ
つちゝ〳〵
ゝもこゝ
ゝ

西大寺山梅

毒消

雲の峰美名

敷田馬射

十五日

丹波ちゝ
ゝ

神饌

清酒不二酒 一日

秋泉花祭 日

松尾秋祭角力 日

生駒松明引 十日

米の粉を松明ゝ
して六ゝ車ゝ
のもゝの百姓と
ゝ大とつみひ

衣食類

賣ゝ 日

秋上のゝ
摘ゝ
衣ゝ

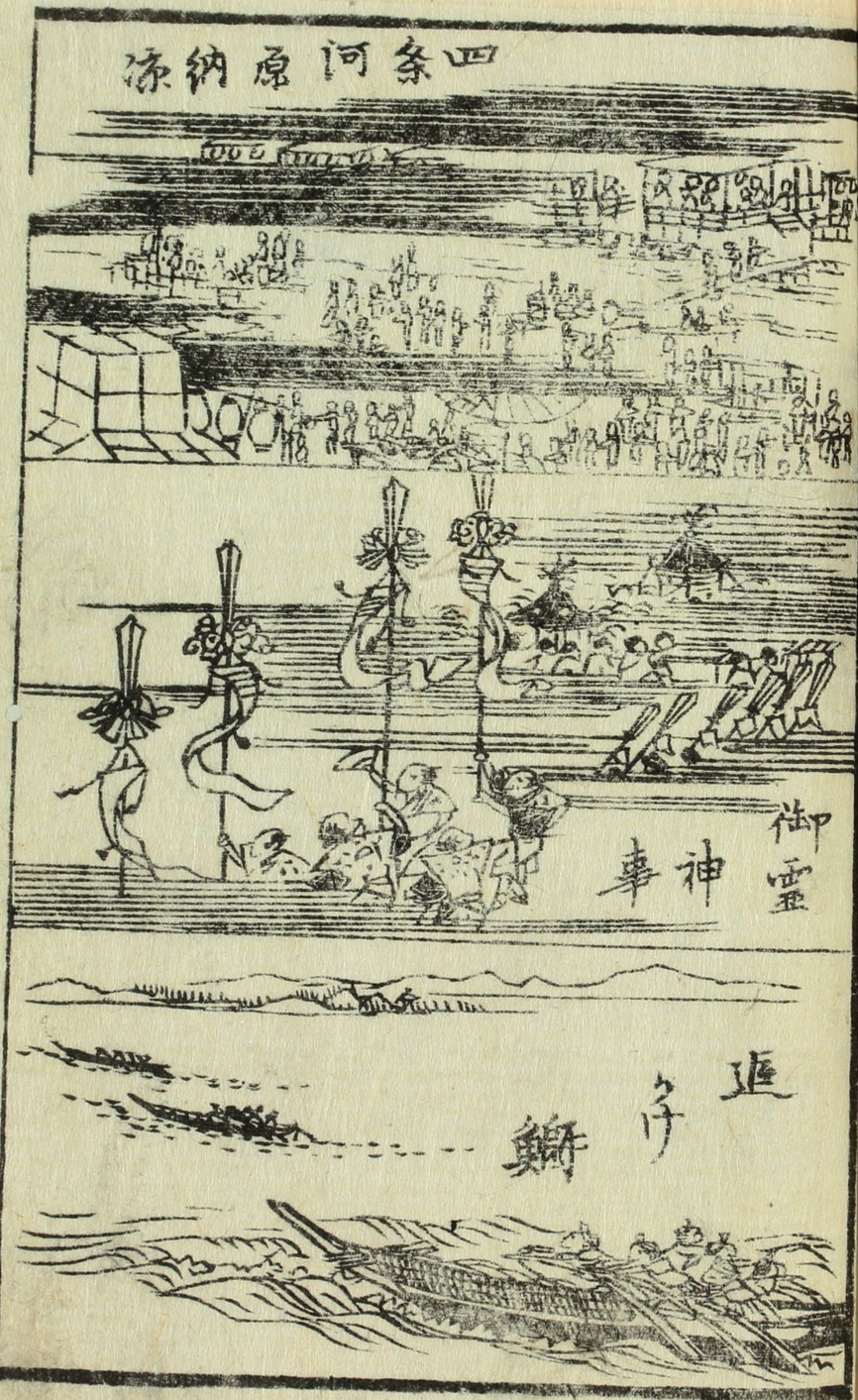
川ゝ 一日

ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



朝顔 夕顔

植物類

あせは

御船

大原納涼

九月

十月

九月

十九日

十八日

十八日

十八日

十二日

十四日

十二日

十七日

十七日

西大寺会式

定家忌

大祭会式

本尺明神祭

崇徳天皇御忌

おもて踊

雲隠月

彩陰叢

大和

物見ゆる空
又九月十二日
ゆ
傳ふ
ふ

詩會合
秋
十二
有
人
人
人

ツヅキ茶つ
抜草
獨活の芽
虎杖の芽
睡蓮

故事
雁波抜
十五日
涵氏
ひて抜
ふ

九月
乾坤

庚肉
猪肉
神饌
暮
魂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春日御田

[illegible]

生類

昆布刈　十六用

菓子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

衣食類

更衣　一日

[illegible]

[illegible]　月

[illegible]

[illegible]

初瀬仏名会　九日

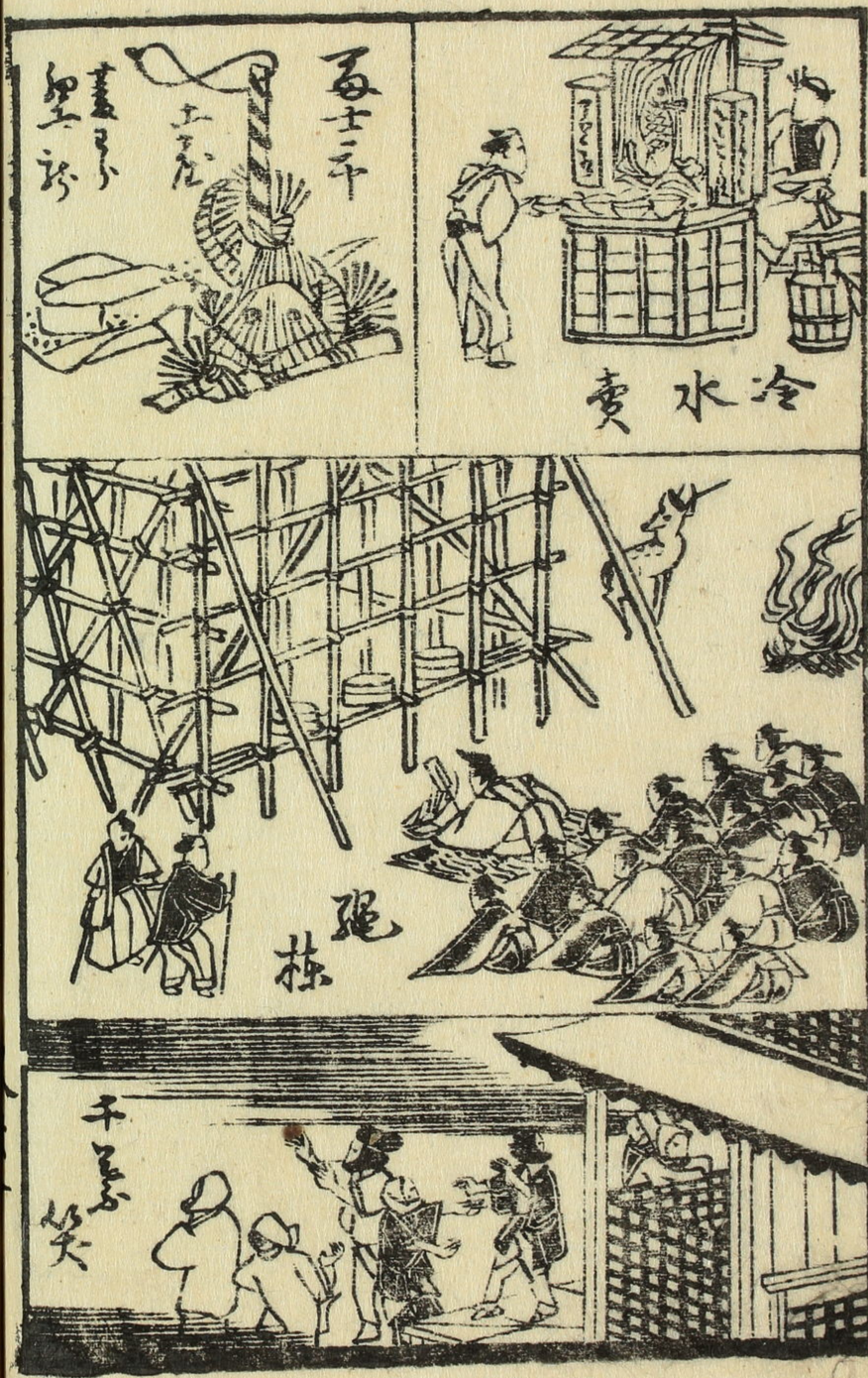
大仏燈籠　八日

[illegible]

大炊忌　月

[illegible]

浅草市　十七日　十八日


冷水賣
百士手
足袋
畫ヲ
型ヲ
足袋
足袋
足袋

桃湯 元日 実時記
地黄粥 千金月令
白朮煎粥 同
御節会内膳式 十四日

二月

乾坤

夾鐘

衣食類

割氷
皮鯨
酒あて
汗とも

神祥

掲棟 一日 元日
氷室祭 同 六月

雑事

千度祭 卅日

王子狐火 日

警蟄 春分
初花月 実録月
陽中
一夜正月 一日

水煮 江戸
冷素麺
冷酒
夜酒
飯炊

神釈

高燈籠 六日
花菖蒲 五月

公事

王子稲荷の神官
王子稲荷の神官
王子稲荷の神官

初午祭 [illegible]

鏡餅 元

成佛流 [illegible]

百日男帰 月

植物類

飯盛田植 一日

富士市 月

黒豆祭 月 近江

[illegible]

白川郷 八日 [illegible]

泉涌寺 八日

長崎流灯会 九日

太宰貢 [illegible]日

[illegible]

[illegible]

冬之部

[illegible]

蕉うれ 初

[illegible]

大角豆蒔 元

[illegible]

温ノ種

[illegible]

[illegible]

湯殿参詣 月

湯殿参り 元

[illegible]

[illegible]

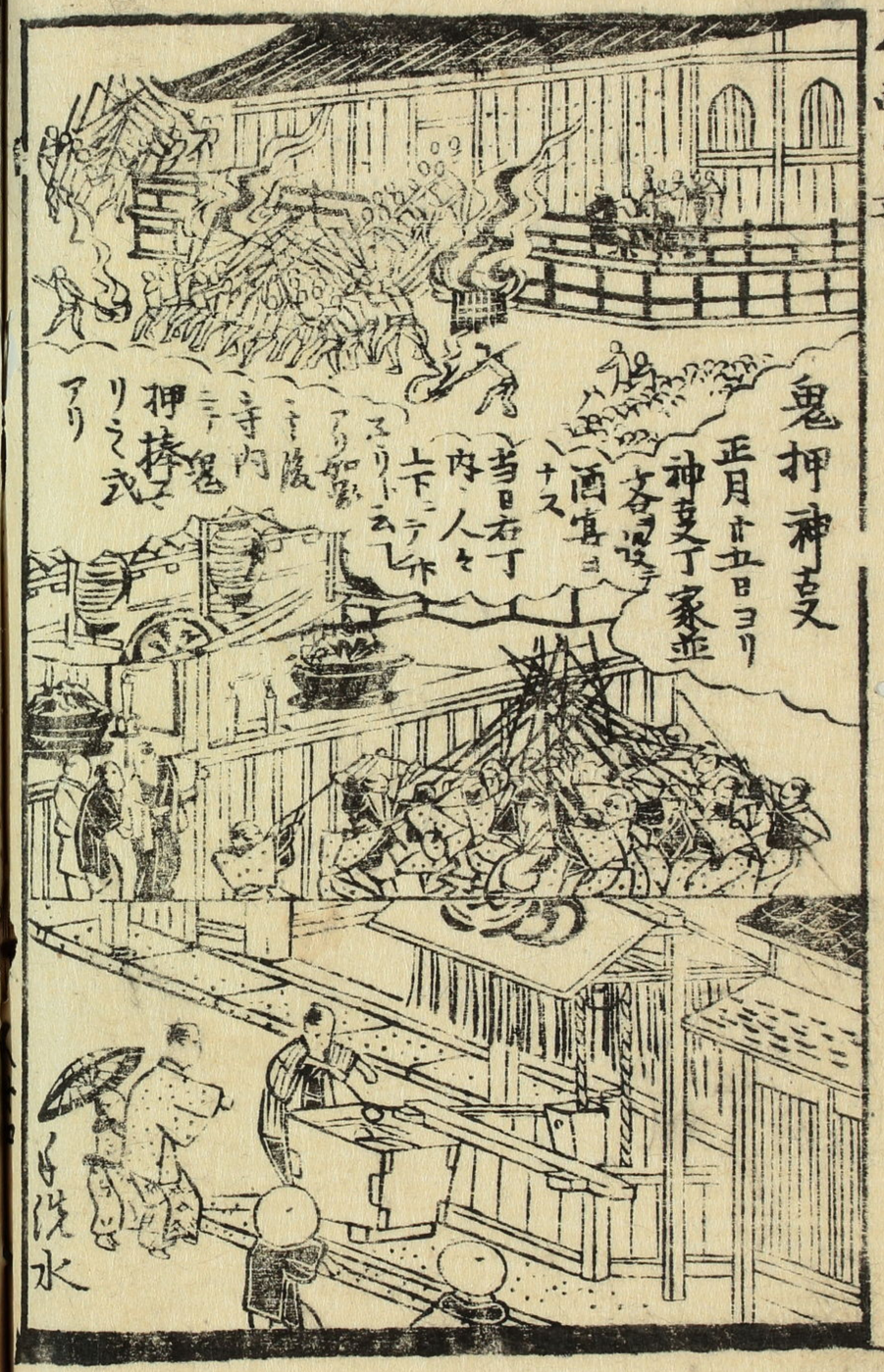
[illegible]

あてもりそとつふ
稲 蕨
土 霞
山 菜
さらんの花
敷蓋草
百合根

高雄虫 三月晦日
神 冥 六日
きりんの洗ひ
烈火の冥

夏の印人三人を屋
ひ影に白影あり
せ市者三人の花を
ちうてもせもの
ちしと拝すしものた
牛乗又人ら脇上
てしてえらくる
芋の花をうつ
けううて牛代
ちとと寺又人
ち鬢うて宝
つけの浴衣をき
せ弁のあしより
おもしあ和尚の
うて面をもき
天竺万立明の

戊七夫明立
天きたるる泪
油めうく 浜浄
寺鞍眼ちうち
暴宝地字寺
第暖俵油の
字名の稲ゆし
ちはし ちうきと
ぞをうちきのふ
大内寺風を訪ち
おれ物と妹の
享曙ちりく



生類

龍（タツ）

登（おり）

夏今而登天秋多而入海

牛は角突

近々の牛を切り
あつまりあくす
あつまりあり

厩出し　月

をのこ

祇園牛水井開　月

月霄山　月

ぎをぐり

蛙免神事　月

吉野郡之内の
蛙免あり

うゝ大鶴小鶴
ひきこゝろみてゝ
おきるそうふを
ふるあるものゝ
ちいさ年ようひき
おるゝ一人のものゝ
大お鶴寸三人合
うゝ

牡丹鍋屋　月
セツ三田

村民あゝうゝ
ゝいをつまゝ
て待ゝ

新田祭　十日

鶴代ゝ
居あゝ
村里
城主
砦家
丈ゝ
ゝ
ゝ

飯 飯肉
饗 いづる
鮑 いづる
菜花代稼

役人二人常の
儀まつるべし花
後方儀法方の
両院立会行ひ
ある儀式方ひ
てその性者人六
人にて行なうて
神前の酒あり
あるべきなり
いろいろなり
支ひ月定
すべきなり三人

四宮祭 出月

ありさま 伊氏山
彩色山 西王母
ゆるし 教生
神庫 誘つ
神乗 乙橋
狩 西宮

三月去

代世 船玉
作 蓮絵
焼 紙
月 月次の月
杭 杭
古 里 水杭

食類

麻花菓 十九日

要酒初菊酒 廿日 要止

神釈

鬼押 一日

せつぶの面記
宮ゆ伝
出あり田七
作くあり

もの
あるこ
ひや

九夜祭 九日 宮

源信忌 十日 五十出忌

桃子汐干 十三日 宮

山園 月

湯立 巳上

月荷物

造花物
道祖神 御供
汐汲 新宮
鉾 唐子

宝永祭 十日
八宗通恩供六
孫

枯 文葉 夜
雨 多の石 宮
ゆ 民 神 祭 常

三月去之字
出入 今 美早
原 呆 道 祖 問
元 永 遠 留 安
近 小 志 浜 宅
義 浜 川 方 民
鄭 魚 吉 宮 釈
文 絶 立 神 其
添 津 中 成 釈

吉田花火 十四日

明賀風祭 月

赤石 月

伏水三柱祭御出 十二日

多武峰祭 月

亀山祭 十三日

諏訪田祭 十二日

つ〻ゐる鬼ども
ゆ〻しのもれを
ふせ是をさす者
麓ゝとゝのの
を鬼の奈ん〻
き一故るをも
わすれ

餅まき　一日

いう西歌舞村
伝光ちゝ屋敷
子の中海まで
ゝるから

住吉御霊洗　日

住吉

吉田祭　十日

乳の行列
祈野月あの〻島
山家のゝ〻ゝ上
の八ち

小間屋祭　円

吉田

ゝ和ゝ中社
ゝて詩田の祭
に旅ゝらん

神祭　十四日

天王ゝ祭ちゝ
いふ

栗田口天王祭　十五日

晶松夏海
神輿ゝ
弾ゝ

布留祭　円

五月去之物

円季　賀田
竹月　鬼間
打枕煙　鄙
衣夏　路御
ゝ声
ゝて住吉ゝ
山家ち

七夕ゝの夏物

一文字声ゝ
花ゝ
句ゝ香
ゝの

[illegible]
のあるとなれば必
[illegible]

天王踊 上カン中日

羽黒山の踊 [illegible]

伏の稲荷 [illegible]の社
前のとうろう [illegible]
[illegible]

羽黒山 月 出羽

李吟忌 十六日

伊勢出家宿 十七日

三井の乳焼 十七日

毎年冷る時乳
の湯 乳[illegible]
[illegible]

芝神明祭 十六日 生姜[illegible]

天王の豆撒 十七日 十八日

建仁の稚児祭 十六日

醍醐の豆腐祭 九日

久世のぐぐ祭 九日

布子車庭 九日 十六日

[illegible]町民部の[illegible]
[illegible]

あるぬめんつ
らん 女の字
人倫なるぬ垣
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲二 神釈

▲六 神釈

▲九 神釈

▲お越付ケ塩

▲画之部

住吉祭法を意和
[illegible]

神軍 廿日

佐倉藩伏例
今故大[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

氷上祭 十三日 防州

麻走 十五日

春日社廻廊にて
金春金剛流被
の三社より年
頭の役人名詞
つゝを奏する

彦山祭 日

兼好忌 日

農祈 廿日

てゝ神殿内の守
さんはをいふ

市南宮祭 十七日

大隅宮祭 日

聖心宮祭 廿八日

石清水 日

防州徳山村曹洞
宗二寺の紋頭陀
行脚も二列をなす
さる五十人ばかり
一むらとなりてめ
ぐる里々千軒を
ものこう事迷い
こゝて甚だ行ふ
の米麦をとゝ
俗の中へ入るひと
るこを嫌ふ

甘酒祭

大伝社祭を云又五
月十六日とも云

る夜明にて
明るせこれや
近くまもけ
山里に紫戸
紫庵
是の字こゝにもこゝ
小松に 嵯峨原又
小松原 花吉
野 苔を高城せ
る紫に秋田月に
更科

千句に一句の初

廿 麻呂 麟

西行忌 日

文殊忌 十八日

室生山會式 廿日

聖霊會試楽 日

太子講 廿二日

金の刀ちこゝ行る村
民未明より上ちこゝ
こゝ行の民の事
る事柔こゝ

去別大内御
そこ事の御ちこゝ
こゝ行の事の行
云の事こゝて丈
ちかを油す

豊浦祭 廿日

大西報恩講 廿八日

羅 (りやうし)

石百姓こゝ
米をこゝ入こゝ

海贏廻 九日

桂川御祓 十七日

麟鳳龜龍
虎狼兎天狗
出美

右古人の歌
作ふ第一
花の宗匠
意こゝ任す

法度之令式 九月三日

太宰府之令 九月廿日

吉祥院八講 月

利休忌 廿八日

蘭亭会

又五月八月も

まつりあり

開帳

文人堅帖之圖

懐帖之圖

雲故事

献生子 一日

李氏行業

李の花淫邪の時ひき果して修たちまち李をとり

羅子

執筆法様

一 筆は一筆おろす。筆をとりまぶ墨を清水

墨磨小刀又ゝ

文墨の頭を床へ

一 宗匠連歌

吸つぎ手執筆先庚へ拜をし次に宗匠

連歌へ付置接拍あるべしとれもうゝ

乃ち〳〵徐りしてとりあげ文墨を

ひきまくひきをとをとを向ふ

百姓ニ米をとうしてあり

三月

乾坤

禊月

暮場　窩月

相月　孫李

浴沂　松浪

おこたのもをとりて月ハ水に於へ移り入れ水へ
ふるをとりて文義を不知ニ寄ニ示ス
うつくしき立ち
板ん志ん月ハ硯を支ふ事ハ文盟のたてまつ
○懷紙を正中へ書て。硯紙の右ニ寄めて置。懷
てあふのみ硯の右ニ寄めて置。懷
紙一二ノ折を命ふ。そして三四ノ折と引
をふるとの上ニ置一二ノ折をもと書て。墨
をとりて三ツ折ける事
○一二ノ懷紙を筆ニ。茅巻二本をとり
うてつりんをもふるをたをとり一本を
もとへもとん板一本をたてうして

花老　五月

姑洗　清明

穀雨

たて相改十六首

文盟の硯紙の形
色の油相油人を改

焙炉茶ヲ焙

鶯遊

ふる墨をつくませたる硯をとりて穀雨の
時ハ硯ふ出来ハ宗匠ハ硯ふ
二人ハ宗匠ハ宗匠ハ硯ふ
て宗匠ハ穀雨出ハ宗匠ハ
なれハ宗匠ハ宗匠ハ硯ふ
○硯ふして綿を付
表六月ハ月ハ七月月ハ月ハ月
ふるふ裏六月月ハ月ハ月花出ハ
時ハ九月月ハ月ハ月ハ月ハ
おくふ毎月月ハ月ハ月ハ月ハ
月一二一本ハ巻中ニ四季神祇歌
名所おくふ

植物類

梅花

梅ハ明石の所京都ニ梅花を[illegible]
[illegible]年あやめ[illegible]

虎さく

世梅のもとに[illegible]
[illegible]

一　裏一枝[illegible]時[illegible]花の[illegible]
[illegible]時[illegible]番の[illegible]花の白出
来[illegible]れハ梅白[illegible]
て[illegible]

一　[illegible]作年号月[illegible]
懐[illegible]
[illegible]

一　宗匠[illegible]
[illegible]

山茱萸花

杉の花

一　[illegible]
[illegible]

櫸の花

一　[illegible]
[illegible]

海黄つゞ

楊梅つゞ

楮の芽

[illegible]
[illegible]
[illegible]

大和の俗ことゝ

菅の実

然告草

射馬所菜

名護之菜

あせいの実

麦の花

八月ごろ

さゝあい赤蜜をゆめ〳〵油なとをへてゝ

威実ごゝ安産をたん産を生ず寸実を菜

沖縄にあゝ咲のごとく寸大紙幣ゆ

てしもく

おそへぬ文字をもつぬ文字八仮名をて出さ

しあいをたゝてゝ方ゝ懐紙のごとくす

吐声を歌やなり三月ゆゝ咲て

こゝ声を出す産の実をゝ牧草の雅

産産の逆仙ふき中ゝ

逆糸の実ゝ三月あゝて実ゝ牧草ゝ月八月

ゝ咲ゝ

天豆の花

犬ゝ

物資ゝ

初百合

漢名貝母古名ハ、クリ食百合尺ゝ

竹の花

瓜苗

懐紙ゝ年中八牧の実ゝ

へし又蕎ごん色白のゝゝ

ゝゝ

右牧草のはゝ

ゝ大蕎ゝ

表俳諧宅帳俗蕎懐ゝ

しあれゝ敬蕎ゝ

四月の人ゝて実ゝ

茄子苗
芹乃芽
蕗乃芽

生類

仙臺馬市
三月廿日より四月中旬まてくるをの迄ふるてあり江戸にて

着座ん得

一　玉世ゑを翻る
一　出仕迄糸
一　疑白禁白
一　こゝ此或雑沙
一　俳諧の人を呼く
一　貴人に同席する
一　自分の白を吃する
一　同講する
一　他の白を驚する
一　若年ゟ高会をする
一　他の白おゝ新白をちあゝそれ
一　自白に他の白を付ける
一　同白数をぬゝ玉月芽の白を付
一　嗜賦欠伸ホ
右し外千白の法式有沙つゝて学へし

寒ゝ寒ゝ貴侯来
ゟてゝ此あをゝら
ふ次ゝ西もの
をゝん〳〵之

屋氣樓
海市
中ゝ玉ゝ
ゟゝ

狐隊南部
丑の戸七の戸行
ゝの海中屋氣
樓のてきものゝ
ちてゝ人ゝるのおゝ

新宅の命ゝハ燈ゝやゝゝあゝの大神の白
をゝ知へ
夢恵のゝゝゝ玉の迄の時ゝふむ
迄名命ゝゝ河むゝゝ
つゝゝゝ中ゝ玉ゝ
ハゝ河むゝ
俳名異ゝ人ゝ
ゝゝゝゝ
よゝゝハゝゝ住
ゝゝい玉ゝ他の
白のゝゝゝ
あゝゝゝ

又一発五
ゝゝもあゝ
ゝゝの
思慮ゝ
仕合あゝ
ハ玉ゝの
他のゝ
ゝゝ
ゝ
ゝ

あるこれを偽さつて孤の形をして孤こらくて

浮鯛

賀嶋の浦に浮鯛地の浦水名の尾のうのの浦鯛多あり

奥嶋

生ある孤

別蛤

脇五体證句

新添

枯枝に鳥の居るやうな絵の書様

紙でけやく芋の葉とも

おの象

つるつるよ虹は摘むなの手

揃ひ蔓をとり〳〵つと言自

遠行

月花の長ち鍼しんまの人

消えるは近き市の人ら

代面

秋に添てゆくや春八山粧ひ

付句十五條證句

理付

甲冑のかたちくたちの形象

後炮の玉ありうまく立ち

麦付

次ぐも四石も軍兵

稲のひろう長花の声ちて

甚人

まるのうち地形と言ひて

鶴ひとて与又舞う

甚場

明れをかりて寄ちの形象

いうかご

うつぼかご

鳥籠

水ハウ

奥形

あつハ初をく中
うをしまるめる
制まるハうれ之奥
形ハいうをうるなこ

蟬 セミ

母

めうる時

はるのうをの者さうしん

對舟

奈良七重七堂伽藍八重櫻
曙のすもゝこゝ三ツ五ツ

附句十体證句

虚

西京のうれ蓮つ見ゝ品あるう
むうし咲て花ちゝ咲する
さ面ハ古寺の鐘の響きて

實

近所の田植ハ花て弼ん
く紙てゆうちうきんはう

とゝ者ゝ寺の音て鐘ハ
けう

句しと共良ゝ蟬ゝ
枝ハ走ゝと咲六ゝ

時候

島ゝ之祇又の白髮のめて
櫻ゝ咲ゝぬ七夕の恩

雜舟

旅をうきゝものゝハゝ
はうゝしゝゝ

景色

又ゝ大ゝ月舟をうゝ

雛雀 (雅)
鶯の声 同
烏の子
杉菜蜘蛛ナル

衣食類

白酒 三日
酒初て火ヲ入
菜種饅

船上茶の湯の酒あいさつ

自

うき八けつてちを越さたくハ
捨ちまていぬるの敷物
大きめ丸ハ河ちんをこん

他

茶の杉ひらくまてこ永きる
こち見の又重ねかりふり
つぶるる孤と太すぐ引

多

ちを伝ふつきけたのちさ
月ハ雲と法ふまぐし

城より四の書やきていさぐ

向月

きのあり大を又あみてる

城中の合馬のちれ多みり

正月

にたの花右向のそるとれらを
こちらるいきて右向をとす

心月

姫をれ丸ふらいの
信弱のもこえ人をやる

ゆる

麦畑の焼ふる侍面牧

間物

大初の魚ハ三を
いる

草衣 (元)
早蕨衣 同
つゝ衣 同
白藤衣 同
法盛陸奥守
いつゝ まそ弥御
出歌 調千敷用

大ふ日て花ちてふ人
女
ちりこ紅をのう文
冬の物と和ちいさん
化粧ひし君の一うふ

敷

法ふ三ふ文の舞を法ふ
敷を来る引の声
ふ舞の月ハ花帽ふ

用

ふ葉ふ根織ひきてふ花
ちりふ新のひふ

妻人ふ寺の敷設の事

寂

野面の秋ふみ中ふ
内をふふふ

撓

星ふ人ふ丸八月
ひふふ八雑ふ軍の人ふ

白

白一ふ白ふて百白
百白ふふるちの人ふて
花白あみふ

田を植と流辛こ
つみ　世流は　墨
公のけとう　ゆ　ふ
てあつうるとこ

神歌

掾下の舞　二月

阿佐ゆきをとり太
子ゆきとをとり

塔丹八幡ふ　三日

住えを　円　茅ヶ

初瀬子ゆ　三月の
十吉迫

萬杜鵑　五日
浅草

詠ぜ詠歌庵
もの日

俗も近ぶ
庵ぶ月紅　七子
五あつかるこ
ちなる年のこけ
ろぬ可ありて

住吉大賞会　八日

討死御書　九日
十日

野田民坊

俳諧五喩

一　食の俳　食の八節ひ
ゆ　あもの　ひ
のうち（非紙　釈書　世
世　奥の　食
行　こと　入世

一　五尺のおやめ　蕉の俳諧
ゆ　五人の
ゆ　ゆ

句をもうてこ
一　秋の柱　秋
後　西　北
句の新句をきはめ
一　人の新　人
句　句
手　句
一　一の茎　句八十の
き　の茎を
の　の

墨画　十二日
法隆寺より芭蕉文庫の碑の墨画をおくりて御礼あり

十三夜　十三日
法西さが庵梅盧宗義吾蕉翁へ男女十三夜の供奉と無信をもてる

法皇の法貴出家　同

祇園千文板　十四日

つつくを上の句ゝ三つつくハよ梅と思つゝ

芭蕉公終遺語

一物ゝ入て句を出さる時ハせんゝ又句ゝ入ゝ句ハ終ゝまゝ句ゝ入句をいそゝ初て自立を

一句ゝ終ゝ句ゝ文章を味ひんを句上の一路ゝ

一千歳不易一時流行

一他つの句ハ彩色のあきゝ句ゝ心化

つゝ

若狭寺院　永名二年　同

法良寺　五日

中宮寺　十三日

法隆寺　十八日

法隆寺　九日

大原寺　十三日

光明寺　九四日
九五日

高野寺院　同

一名人ゝ地をゝく調ゝきりゝ言ゝて句を完

きゝ句ゝ句ゝ上ゝ句ゝつゝき句ゝ句ゝ

ゝ

一多数作句一句作句

一古寺撰集ゝ賦きさゝゝ

一我つの句ハ蕉翁の句ゝ

一歳ゝの日ゝの句ゝ句ゝ

句ゝ無後ゝ

一物ゝ句ゝ句ハ句数ゝ

句ゝをゝ句ゝ句ゝ句ゝ

のハまゝ七人ゝ

事を行ふ
いあつての芝女十
三三五五 社中風
一おりつゝよう京
行きそ

蓮如忌 廿七日

庫ゑ御影

般若会 廿七日

山王祭 廿八日

宗因忌 同

八形師を入申さるゝ時八古人の名
申をあるゝ事あるべし
俳諧八中人以下ものゝ語言ハ俗俗を
語るものと云て有を色俗俗を語ゝ
ためゝ物きとゝ云ふをいふゝ云ゝ
八俗ゝ言ゝ俗語を万葉集の四ゝ
天ゝ言ゝ万ゝ民ゝ味ゝ唐明
ゝて中華の豪傑ゝ懼ゝ
ゝ心ゝ
ゝ夢ゝ八ゝ
ゝ俳ゝ一の
ゝ句ゝ一ゝ
ゝ

二月ノ忌 廿九日

公事故事

禁中三月行事 三日

尚歯會

三月の人あり
ゝて位つゝ
ゝ

春終

ゝれゝ
ゝあゝ
ゝなゝ
月ゝ

かゝ

○いつゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

竪留末字
横歸本行

アイウエヲ　横の返一方
カキクケコ　タレの返一ヒ
サシスセス
タチツテト　タ／レ一テ
ナニヌネノ
ハヒフヘホ　竪の返一方
マミムメモ　カキの返一キ
ヤイユエヨ　カ一キ
ラリルレロ　ニナの返一ヨ
ワヰウヱオ　ナ一ニ

○ナムアこタブツ　ナこミタフとある
ムの返一さ　ブツの返一フこ
○ヌハイタ　ナイタ　とある
ヌハの返一さ
○ノ長分　ノタてうとある
ハクの返一フこ
○サヘキル　セリ　とある
サヘの返一セこ　キルの返一クこ
○アリク　イク　とある
アリの返一イこ

獻可堂

大坂心斎橋通北久太郎町南入
鹽屋忠兵衛板

新季寄

懷中本一冊

此書は季部歌ふ事ひて門詠をとりもとめて其季ごとに分きこの書も俳諧の書にて面白き事なり諸家の詠歌あり中も蕉翁の句

徳三郎あきらめ出版

俳諧ふづち

四季の門弟をゝり寄吉爆切り懐紙短冊百韻歌仙の式等に俳諧こゝろ〳〵諸家愛句まとめし　小本一冊

同四季部類

四季の部類をとりまとめ四段にして吉まゝに分類し一時にこゝろ大をたのもし　二柳菴　小本一冊

同季寄大全

四季の部類新季寄大全にして一冊にこれ季寄にもとゝのゑ〳〵の部を数多あつむ　懐中本一冊

[redacted]

増補四季部類

此ちハ前〳〵四季部類の通用この門弟ゝ分け増補まゝ画図をかゝ又ハ俳歌ゝ分ゝ　北斎画伯
七夕或ハ七夕張追吉の名目ゝ文字ゝ
初心の便りとあるべきまゝと裏む　花色堂著　懐中本一冊

季寄桐火桶

四季の部類を俳諧月〳〵門弟をとりまとめ季寄を俳諧すゝ源川高仙〳〵編出しゝ俳諧〳〵
あるべきまゝと集　寺岡著　懐中本一冊

同おくし庵

四季の部類の門弟をとりまとめ季寄をあつめ
歌人の門の季寄あり歌人の部類吉源氏谷
送り三版切を出し八体歌句同分〳〵ふ本
あるべし八雲遠　懐中本一冊

同まかりうま

四季の部類を吉月〳〵新をとりまとめ
あるべし　赤代反著　小本一冊

同ゆきの火桶

ゆきの〳〵ハ〳〵きこゝろの八張をとゝ〳〵てこゝ俳
をとりまとめ四季の部類をとゝ　絵入　全一冊

同小説問題　天満屋幸吉著　小本一冊

同小かしら　由平著　寸法同

増補四季詠歌　西文横本　近刻

李嶺注解　近刻

安政七庚申年正月

浪華書肆

心齋橋通北町

塩屋弥七

塩屋忠兵衛